

Japanisch-
Deutsches
Kulturinstitut

公益財団法人日独文化研究所

所 報

Newsletter des Japanisch-Deutschen Kulturinstituts

2021年度
第10号

〒606-8305 京都市左京区吉田河原町19番地3

新パンフレットに寄せて

日独文化研究所 理事長 秋富克哉

日独文化研究所の新しいパンフレットが出来上がった。役員の交代や活動の新情報などを受けて全体を一新したものである。ただ、これらの中身が自ずと決まってくるのに対し、理事の間で最後まで調整に手間取ったのが表紙だった。広報上の顔となるものであるから、否が応でも慎重にならざるを得ない。いくつかの案が浮上するなか、ドイツと日本（京都）の風景を取り込んだ案も個人的には捨て難かったが、パンフレットにはやはりデザイン性の強いものが相応しいということになり、両国国旗をあしらった楕円状の図形が中央で結合した図案が採用された。関係者の間では、デフォルメされた図形について、串団子だとかそろばん玉だとか早くも親しみが共有されてきているが、今後、見た人の想像をどのようにかき立てるか楽しみでもある。

さて、改めて日独両国の国旗である。一方は言わずと知れた白地に赤丸、他方は直線で横に三分割されて上から黒・赤・黄（金）、恥ずかしながら今回改めて気づかされたのは、構成も印象も異なる両国旗が、ともに赤を中心に配していることであった。パンフレットでは区別のためわずかな濃淡の変化が加えられているが、赤という括りに違いはない。

一方の日本国旗である日の丸、正式な制定は1870（明治3）年の太政官布告に依るが、日の丸にも紅白にも、歴史的に諸々の謂れがある。太陽を象徴する赤丸には、日本古来の太陽崇拝に加え、聖徳太子が遣隋使の派遣に際して用いた「日出るところ」の文言も強く作用したようだ。紅白はもともとめでたい色とされ、赤は博愛と活力、白は神聖と純潔を意味すると言われている。

他方、ドイツの国旗は、19世紀初めナポレオン軍による侵略戦争に参戦した学生義勇軍の軍服の色に由来し、黒はマント、赤は肩章、黄は金ボタンを表すというのが定説である。各色が勤勉・情熱・名誉に対応し、全体は自由と統一を象徴するとされる。

そのような両国が前世紀、「博愛」や「情熱」の象徴であるはずの「赤」を、同じくその象徴である「熱狂」や「危険」へと歪め、「血」に染まった不幸な歴史で結びついたことは、言を俟たない。

21世紀において両国が共有すべきは、お互いの負の歴史を正面から受け止めつつ、今回の図案が示すように、一方で赤とそれを包む白地は三つの楕円へ、他方で三色の長方形は柔らかな楕円へという、双方の柔軟な歩み寄りによる結びつきであろう。このような図案をパンフレットの表紙に据えた日独文化研究所には、これまでの蓄積を土台に、両国の新たな結びつきを活動の中身に加えてゆくことが求められる。



新しくなった研究所のパンフレット表紙

令和2年度の活動報告

◎哲学講座

日独文化研究所の中心的活動のひとつが、市民一般に開かれた「哲学講座」です。令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期になっていた元年度「初春講座」の後半を再開、新たに初春講座を開催しました。前者は公益財団法人日独文化研究所セミナー室にて開催するとともに、初めてオンライン配信を併用するハイブリッド方式でおこないました。また、後者は緊急事態宣言が発令されたため、講師はセミナー室から発信、受講者はオンラインのみという形になりました。オンライン受講により、関東圏から参加される受講生もあり、哲学講座の可能性が広がりました。

* 中秋講座「美学、その誕生と展開」(令和元年度初春講座 再開=後半)

全3回：令和2年10月14日(水)～同10月28日(水)
受講者：30名(学生・院生・OD 16名、一般14名)

杉山卓史氏(京都大学准教授)を講師にお招きして、カント、シェリング、ヘーゲルの美学・芸術論を解説していただきました。ハイブリッド形式でしたが、リアル参加の受講生はもちろん、初めてのオンライン受講に挑戦したという受講生からも活発な質疑をいただきました。大学の講義などでなれておられる杉山先生よりスマートに整理、回答していただき、充実した講座となりました。

* 初春講座「哲学と時代 一国家とドイツとの分裂の中で思惟する哲学者ヘーゲル」

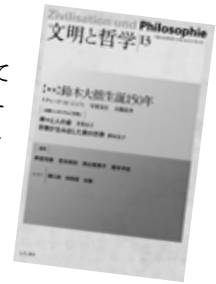
全6回：令和3年1月14日(木)～同3月4日(木)
受講者：16名(学生・院生・OD 6名、一般10名)

長年、ヘーゲルを中心とする近世ドイツ哲学の研究にとりくまれてきた早瀬明氏(京都外国語大学非常勤講師・元教授)を講師にお招きして、ヘーゲル哲学を基軸にしながら、近世におけるドイツ固有の問題に切り込んでいただきました。思想を歴史的な脈から読み解く、早瀬先生の骨太な世界観を満喫する講座となりました。

◎出版事業

* 年報『文明と哲学』第13号刊行

令和3年3月にこぶし書房を通じて刊行いたしました。今号は、特集テーマとして「鈴木大拙生誕150年」を設定し、アメリカからもご寄稿いただきました。本研究所の役員、研究員による論考、公開シンポジウムの成果を収録しております。



【論考】リチャード・M・ジャフィ、守屋友江、大橋良介、秋富克哉、吉永和加、高山佳奈子、坂本学史

【エッセイ】関口浩、和田信、谷徹

【公開シンポジウム「文明」】芳賀京子、榎屋友子

* 論集『共同研究 共生 一そのエトス、パトス、ロゴス』

令和2年9月にこぶし書房を通じて刊行いたしました。「地球学的な人文への旅立ち」として、哲学・法学・宗教学・精神医学と、惑星科学・考古学・霊長類学・海洋経済学の学際共同研究の最初の報告となっております。



● 共生の原点一自然と文明

山極壽一、川勝平太、湯本貴和、大橋良介

● 共生のエトス一倫理学・法学・医学

秋富克哉、谷徹、和田信、木村敏、高田篤、高山佳奈子

● 共生のパトスとロゴス一宗教・神話・文学

東長靖、芦名定道、松丸壽雄、森哲郎、水野友晴、関口浩、小川暁夫、安部浩

● 共生と文明一宇宙論的視座から

松井孝典

令和3年度の活動計画

1. 年報の刊行

「文明と哲学」第14号を令和4年3月に刊行予定です。特集は「木村敏 人と学問」の予定です。

2. 哲学講座の開催

* 初夏講座「ヘーゲル哲学入門」

期間：令和3年5月8日(土)～5月29日(土)

講師：大河内泰樹氏(京都大学教授)

* 初秋講座「西田哲学への誘い」

期間：令和3年9月3日(金)～10月8日(金)

講師：田中久文氏(日本女子大学名誉教授)

講師もオンラインで参加するという初めての試みです。受講生も各地から参加いただけるようになります。

* 初春講座

講師：和田信氏(本研究所理事、大阪国際がんセンター診療・緩和科部長)

期間：令和4年1月から2月

精神医学に関する講座を予定しています。

3. オンライン講義シリーズ「ドイツ観念論と京都学派」

講師：大橋良介氏(本研究所所長)

期間：令和3年8月26日(木)～令和4年2月24日(木)(計7回)

※新たに始めましたオンライン講義シリーズは、本研究所役員によるオンライン配信に特化した講義です。本研究所の役員(理事、監事、評議員)は、ほぼ全員が研究者であり、研究所の活動紹介を兼ねて今後単発またはシリーズで開催します。

4. 国際交流「西田生誕150年・西谷生誕120年記念シンポジウム」

日独の若手研究者によるゼミナールを2022年2月に開催する予定です。

※なお、第30回公開シンポジウム(連続テーマ「文明」の4回目)は令和4年度に延期の予定です。

Der Brief
von
Deutschlandドイツだより (10)
Der Brief von Deutschland

コロナ禍の中で思い出す日々

本研究所監事 齊藤真紀
(京都大学大学院法学研究科教授)

監事に就任したのを機にドイツとの関わりについて何か一筆、というお題を頂戴したが、コロナ禍でドイツへの渡航もままならない時期であることから、30年ほど前の思い出を綴ることにした。

1990年10月3日、私は、南ドイツのライン川の支流沿いにある小さな村にいた。学校の宿題を終えて階下に行くと、居間で家族がリースリングで乾杯をしていた。「今日はWiedervereinigungの日なんだよ」と言われ、ああ、そうだった、おめでとう、と述べた。日本のテレビでみたベルリンの壁の崩壊から約1年、現地で過ごした歴史的な日は、各地の歓喜の様子を伝えるテレビを除けば、静かな、ありふれた一日だった。

高校1年のときのことで、交換留学で1年間ドイツにホームステイしていた。エズラ・ヴォーゲルの"Japan as Number One"を体現するように、日本がバブル景気に沸き、世界第二の経済大国であった時代。ドイツでも日本製品が良質のものとして並び、日本や韓国の



夏の午後の庭で（友人たち）

高校生の理数系能力の高さが知られていた。そのような時代背景は知らなかったが、街中でアジア人に対する差別的なまなざしを感じても、aus Japanと言えば、相手の対応がfreundlichになることを経験から学んだ。

通っていたギムナジウムは、人文系科目に力点を置いたカリキュラムを提供しており、私が所属した11学年では、英語・フランス語・ラテン語の3つの外国語が必修だった。ラテン語のクラスで使われたテキストはシーザーの『ガリア戦記』で、毎晩遅くまで、ラテン語の活用を必死で覚えながら、これが『車輪の下』の世界か、と思ったものだ。

ヘッセといえば、国語のテキストが『デミアン』だった。同書のほか、カフカの『変身』、マックス・フリッシュの『ホモ・ファーベル』の3冊を1年間かけて読み解くという授業だった。ドイツ語を学び始めてまだ数ヶ月、冠詞と前置詞以外の単語はすべて辞書を引いて『デミアン』の予習をしても、内容はさっぱり分からなかった。が、半分ほど読み進んだある日、その晩はなぜか文章がととも滑らかに頭に入ってきて、予習範囲を終えても先が気になってページを繰り、明け方に読み終えてしまった。最後は、泣いていたように思う。

数年後、当時を懐かしんで『デミアン』の訳書を読んでみたが、あの気持ちが再現されることはなかった。思春期のただ中、南ドイツの更けゆく夜に、原書でシンクレールの心情を追体験したのは、一回限りのものだったのだ。



教室での授業

■■■ 訃報 木村敏先生 ■■■

本研究所の財団法人時代は理事長・所長を務められたこともあり、公益財団法人に移行してからは評議員として長年ご尽力くださった木村敏先生が、令和3年8月4日にお亡くなりになりました（享年90歳）。

世界的に知られた学者として、本研究所でも2009年度冬期哲学講座「臨床哲学の諸問題」（2010年2月10日から3月31日まで、計6回）では講師を務められ、講座の内容は『臨床哲学講義』（創元社、2012年）と

して刊行されました。また、本研究所の公開シンポジウムでは、2006年に第4期のテーマ「時間」第2回目「生命の時間」の枠テーマのもと、「自己・生命・時間」と題して講演されています。テーマごとに刊行されている公開シンポジウムの出版編集にも当初から関わってこられました。

本研究所では、木村敏先生を偲ぶ会として、親交の深かった研究者の皆さまによる座談会を、2022年1月10日（月・祝）に開催します。一般の皆様にはオンラインでライブ配信する予定です。



令和2年度の報告

事業報告

1. 事業状況

- ・「文明と哲学」第13号刊行
- ・論集の刊行『共同研究 共生—そのエトス、パトス、ロゴス』
- ・哲学講座 中秋講座全3回（令和元年度初春講座後半）、初春講座全6回
- ・所報の発行 令和2年10月（第9号）
 <以上、詳細は第2面令和2年度の活動報告をご覧ください>
- ・地下書庫の整理：地下書庫の蔵書を整理し、日独学術文化に関する図書及び資料の収集並びに公開のために活用できる空間を、所長の指揮のもとで整備中です。蔵書数は令和2年3月31日現在で2,069冊であることを確認しています。
- ・なお、令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止により、学術交流を延期いたしました。

2. 公益財団法人日独文化研究所評議員・役員一覧（令和2年8月31日現在）

- ・評議員 安部浩、阿部光幸、木村敏、初宿正典、西川伸一、松丸壽雄、森哲郎
- ・理事 秋富克哉、小川暁夫、大橋良介、高田篤、高山佳奈子、谷徹、和田信
- ・監事 齊藤真紀、津野紀代志

3. 理事会・評議員会の開催

- ・第28回理事会を令和2年6月8日開催し、次の議案について審議しました。
 - 議案1 令和元年度事業報告及び決算書類を承認する件
 - 議案2 評議員会へ提出する役員等候補者名簿を承認する件
 - 議案3 令和2年度の役員採用の件
 - 議案4 いざなみ監査法人との外部任意監査の契約を更新する件
 - 議案5 定時評議員会を招集する件
- 審議の結果、議案1～5は可決されました。また、次の事項について報告がなされました。
- 報告事項 理事長及び所長の職務の執行状況についての報告

- ・第13回評議員会を令和2年6月25日、書面によるみなし決議にて開催し、次の議案について審議可決いたしました。

- 議案1 令和元年度の事業報告、貸借対照表、損益計算書（正味財産増減計算書）及び財産目録を承認する件
- 議案2 秋富克哉氏を理事に選任（重任）する件
- 議案3 大橋良介氏を理事に選任（重任）する件
- 議案4 小川暁夫氏を理事に選任（重任）する件
- 議案5 高田 篤氏を理事に選任（重任）する件
- 議案6 谷 徹氏を理事に選任（重任）する件
- 議案7 和田 信氏を理事に選任（重任）する件
- 議案8 高山佳奈子氏を監事に選任（重任）する件
- 議案9 津野紀代志氏を監事に選任（重任）する件

- ・第29回理事会を令和2年7月6日開催し、次の議案について審議しました。
 - 議案1 理事長（代表理事）を選定する件
 - 議案2 所長（代表理事）を選定する件
 - 議案3 常務理事を選定する件
 - 議案4 最高管理責任者を選定する件
 - 議案5 研究統括管理責任者を選定する件
 - 議案6 コンプライアンス推進責任者を選定する件
 - 議案7 独立行政法人日本学術振興会「課題設定による先導的人文学・社会科学推進事業（領域開拓プログラム（研究テーマ公募型））」への申請を承認決定する件
 - 議案8 森哲郎評議員の研究機関として公益財団法人日独文化研究所を登録する作業を府省共通研究開発管理システム（e-Rad）上で行うことを承認決定する件
- 審議の結果、すべての議案が可決されました。また次の事項について報告がなされました。
- 報告事項 令和2年度公開シンポジウム開催延期の件

- ・第30回理事会を令和2年9月11日開催し、次の議案について審議しました。
 - 議案1 公益財団法人日独文化研究所 研究不正防止規程を改正する件
- 審議の結果、議案が可決されました。また次の事項について報告がなされました。
- 報告事項1 論集「共同研究 共生」制作費の件
- 報告事項2 内閣府令和元年度事業報告書の遊休財産保有制限上限超過に関する令和2年度解消計画の件
- 報告事項3 哲学講座 再開の件
- 報告事項4 今後の予定

- ・第31回理事会を令和3年1月18日開催し、次の議案について審議しました。
 - 議案1 評議員会へ提出する役員等候補者名簿を承認する件
 - 議案2 令和3年度事業計画案及び予算案等を検討する件
 - 議案3 令和3年度における研究員の採用計画を協議する件
 - 議案4 事務局長との契約を更新する件
 - 議案5 事務局員との契約を更新する件
- 審議の結果、すべての議案が可決されました。また次の事項について報告がなされました。
- 報告事項1 理事長及び所長の職務執行状況についての報告
- 報告事項2 年報「文明と哲学」第13号について
- 報告事項3 西谷ワークショップ、西田ワークショップについて
- 報告事項4 日独4研究所合同・自然ワークショップについて
- 報告事項5 今後の予定

- ・第32回理事会を令和3年1月25日開催し、次の議案について審議しました。
 - 議案1 令和3年度事業計画案及び予算案等を承認決定する件
 - 議案2 令和2年度に法人会計から学術文化振興会計へ4百万円の資金を移動することを承認決定する件。ただし、評議員会の承認を得ることを条件とする。
 - 議案3 評議員会を招集する件
- 審議の結果、すべての議案が可決されました。なお、議案2については特別決議により可決されています。また次の事項について報告がなされました。
- 報告事項 令和3年公開シンポジウム開催予定について

- ・第14回評議員会を令和3年2月16日、みなし決議にて開催し、次の議案について審議可決いたしました。なお、議案3については特別決議により可決されています。

- 議案1 高山佳奈子氏を理事に選任する件
- 議案2 齊藤真紀氏を監事に選任する件
- 議案3 令和2年度に法人会計から学術文化振興会計へ4百万円の資金を移動することを承認決定する件

◎財務報告

（令和3年3月31日現在、単位：千円）

資 産				正味財産
基本財産	特定資産	その他 固定資産	流動資産	
141,369	750	4,544	5,690	152,133

収 入		支 出	
賛助会費	その他	事業費	管理費
487	167	7,110	2,261

令和2年度には正味財産の減少が8,737千円ありました。公益目的事業にあっては、133千円の一般正味財産減少となっており、「収支相償の原則」を満たす結果となっています。なお、公益事業比率は78.2%となっています。

〈編集後記〉

役員の異動がありました。高山佳奈子氏（京都大学大学院法学研究科教授）が理事に就任し、新たに齊藤真紀氏（京都大学大学院法学研究科教授）が監事となりました。齊藤先生にはドイツだよりのご寄稿をいただいております。是非ご覧ください。

公益財団法人日独文化研究所 所報 第10号 令和3(2021)年10月1日発行

発 行 公益財団法人 日独文化研究所

〒606-8305 京都市左京区吉田河原町19番地3号

Tel. 075-771-5200 Fax. 075-771-5242

http://www.nichidokubunka.or.jp zaidan@nichidokubunka.or.jp

編集協力 文屋秋栄株式会社